

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表:2022年 1月 27日

事業所名 : 児童発達支援あんだんて

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○	法令で定められたスペースではあるが、活動によっては狭く感じるため、設備配置などを工夫している。	活動に応じて配置を変えるなど、利用者が活動しやすいように検討していく。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		活動の内容や利用者の特性に応じて、職員配置を行っている。	より良い支援のための職員配置を心がける。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		一日の流れが利用者によりわかりやすいよう、ホワイトボードに掲示してある。	玄関の段差には足置きを準備したり、必要に応じて職員が介助している。今後も安全に配慮した整備に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		衛生管理に配慮し、午前と午後後に机、椅子、道具、室内の消毒を行っている。	心地よい環境、空間づくりを行い、感染症予防として消毒、換気等を徹底する。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		職員全員で振り返りを行い、情報共有を図っている。	業務連絡ノートやチャットを利用し、効果的な業務改善を進める。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		アンケート等によって頂いた意見は、職員間で共有している。	保護者の意向や意見を尊重し、よりよい支援に努める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページで公開している。	自己評価の結果はホームページで行う。
適切な支援の提供	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第三者評価は今後の検討課題とする。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		毎月、事業所内研修を行っている。また、ZOOM研修など参加できる機会を設けている。	外部研修にも積極的に参加し、資質の向上に努めたい。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者にアンケートを記入して頂き、その後面談を行った後、作成している。	今後も、利用に際しての体験時にも面談や行動記録を行い、支援計画作成に生かす。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		職員間でのアセスメントツールの共有を行っている。	正確なアセスメントに向けて取り組む。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		ガイドラインを基に、利用者の状況や課題、保護者の意向等を踏まえ、支援内容を設定している。	今後も継続して取り組む。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画に基づいた支援を、職員間で共通認識を持ちながら行っている。	今後も継続して取り組む。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		毎月の活動のプログラムは職員間で話し合っ決定している。	プログラムの目的や利用者の状況把握に努めながら、今後もチームで行う。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		季節を意識した活動を行い、プログラムに偏りがないよう工夫している。	身体、音楽、制作、言葉、数字、英語、生活のあそびを取り入れたプログラムを行う。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		ひとりひとりの発達状況や特性に応じて、個別課題と集団活動を組み合わせている。	より良い支援のために、個別と集団をバランスよく取り入れる。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		毎日の活動内容は、その日のリーダーを中心に確認を行っている。	リーダーは持ち回りとし、役割分担しながら各自が責任をもって取り組む。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		活動記録を残し、必ず振り返りを行うようにしている。	活動の中で気づいたことは、細かく意見を出し合う時間を作る。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		ケース記録は細かく残し、支援の改善に繋げている。	ケース記録の入力は効率よく行う。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的なモニタリングの他にも保護者からの要望があれば面談を行う等の対応を行っている。	今後も継続して取り組む。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達支援管理責任者が参画している。	児童発達支援管理責任者が参加することで、計画や支援に活かしていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		保健所や保健師、子育て支援講師との連携を行っている。	今後も継続して取り組む。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○	対象児はいない。	今後、受け入れ希望があった場合は、慎重に検討することとする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○	対象児はいない。	今後、受け入れ希望があった場合は、慎重に検討することとする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて、保育園・幼稚園に伺い、情報共有を行っている。また、事業所での様子を保育園や幼稚園の先生に見学して頂いている。	今後も積極的に取り組む。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	対象児はいない。	次年度から取り組みを図りたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修に参加する等、連携を図っている。	今後も継続して取り組む。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		活動としての交流の機会は設けていないが、利用者より要望があれば取り入れていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		○		今後参加予定である。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		活動終了後に、今日の様子を伝えたり、振り返りを行うようにし、統一した対応ができるようにしている。	送迎時の伝達や連絡帳を利用する等、保護者との情報共有に努める。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		定期的なセミナーを開催し、家庭での対応に活かして頂いている。	保護者の思いや悩みに寄り添えるよう努める。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に、利用契約書や重要事項説明書を通して、詳しく行っている。	丁寧に分かりやすい説明を心がける。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		ガイドラインに即し適切な計画を作成した上で、保護者へ詳しく説明を行い、同意を得ている。	今後も継続して取り組む。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的なセミナー(保護者のお話し会)や個別に相談があった際には、支援の方法と一緒に検討している。	保護者の思いに寄り添った支援を心がけ、相談しやすい雰囲気作りを行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		親子療育での活動を通し、活発な交流が持たれている。	今後も親しみやすい環境の下、交流が行われるよう配慮する。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		マニュアルについては契約時に説明をし、事業所内に掲示している。また、意見箱も設置している。	相談や申し入れについては、迅速な対応を心がける。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月、活動の予定表を配布している。普段と異なる活動の際には、詳細を説明したプリントを配布し対応している。	連絡帳等を利用した情報の共有を図る。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		契約時に個人情報同意書を通して説明を行い、同意を得た上で取り扱いに注意している。	今後も継続して取り組む。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		一日の流れは、利用者にわかりやすいようにホワイトボードに掲示し、見通しを持てるように配慮している。	利用者の特性や状況に応じた方法やアイテムを用いる。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		新型コロナの状況が収束した後は検討したい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		保護者も一緒に避難訓練に参加して頂いている。マニュアルは掲示している。	今後も継続して取り組む。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		消防署に見学に行き、消防隊の方に説明をして頂いた。マニュアルは掲示している。	今後も継続して取り組む。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		事前に聞き取りを行っている。	職員間でも共通認識を持ち、対応する。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	対象児はいない。	対象児には、職員間でも共通認識を持ち、対応する。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	まだ、一件もヒヤリハットはあがっていない。	事例発生がないよう注意喚起に努める。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止研修に参加した職員が他職員へも情報伝達を行っている。	今後も継続して取り組む。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	契約時に説明を行っている。個別支援計画書には記載していない。	身体拘束の可能性のある受け入れがあった場合、十分な説明と同意を得て、支援計画書に記載することとする。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。